

# 令和4年度 病害虫発生予察情報

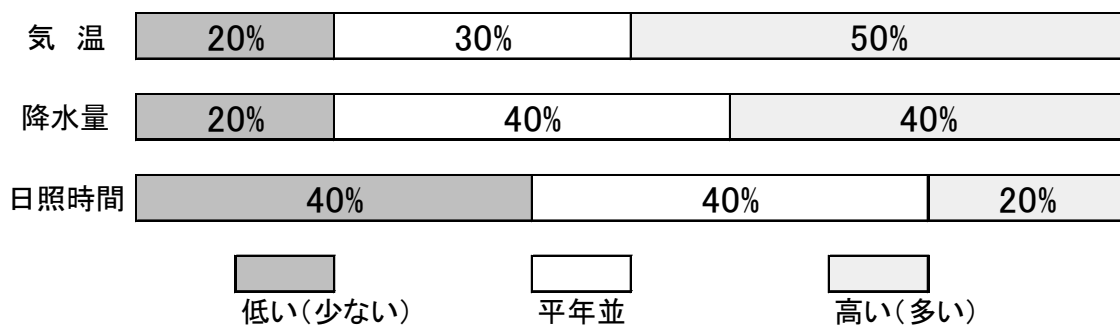
## 発生予報第5号（7月下旬～8月中旬）

令和4年7月15日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		穂いもち	平年並		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		白葉枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並～やや多い		
		ヒメトビウンカ	平年並～やや多い		
		ニカメイチュウ	平年並～やや多い		
		ツマグロヨコバイ	やや少ない～平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並～やや多い		
		コブノメイガ	平年並～やや多い		
		斑点米カメムシ類	多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや多い
				黒星病	少ない
シンクイムシ類	やや多い				
ハダニ類	平年並～やや多い				
アブラムシ類	やや少ない				
カキ	うどんこ病		平年並		
	チャノキアザミウマ		平年並		
果樹全般	カメムシ類		やや多い		

中国地方1か月予報(7月16日～8月15日・広島地方气象台7月14日発表)  
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が4.3%(平年7.9%)、発病株率が2.0%(平年2.6%)と発生量は平年並みである。
- ② 7月中旬までの感染好適日の出現回数は平年に比べて少ない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は4.3%（平年9.9%）、発病株率が1.2%（平年1.2%）と発生量は平年並みである。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①媒介虫であるヒメトビウンカの発生量は平年並～やや多いと予想される。
- ②4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、定点調査では0%（平年0.6%）と低いものの、一部の縞葉枯病発生地域では保毒虫率が高い。
- ③5月下旬の巡回調査でのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
- ④6月下旬の巡回調査でのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
- ⑤県内の一部で発生が確認されている。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は78.3%（平年50.3%）、捕獲数は12.8頭（平年8.02頭/50株）と発生量は平年並みである。
- ②予察灯（出雲市）における誘殺数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(7) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.2%（平年4.8%）、被害株率は0.0%（平年0.19%）と発生量は平年並みである。
- ②予察灯（出雲市）、フェロモントラップ（出雲市）における誘殺数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は32.6%（平年44.9%）、捕獲数は3.4頭（平年7.8頭/50株）と発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 予察灯（出雲市）での誘殺数は平年に比べて少ない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は50.0%（平年68.0%）、捕獲数は2.2頭（平年60.6頭/50株）と発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 7月第3半旬までの予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）での誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.2%（平年4.8%）、捕獲数は0.0頭（平年1.01頭/50株）と発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.2%（平年1.9%）、被害株率は0.0%（平年8.37%）と発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月12～13日に出穂している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、カメムシ類合計で発生ほ場率は100%（平年82.7%）、平均捕獲虫数は23.5頭/20回振り（平年7.4頭）と発生量は平年に比べて多い。主要種はアカスジカスミカメであるものの、大型のカメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシなど）の個体数が多い。
- ② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類の発生ほ場率は80.4%（平年62.2%）と平年に比べてやや多い、捕獲頭数は10.7頭/20回振り（平年10.7頭）と発生量は平年並みである。
- ③ 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）で斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計が150頭（平年120.9頭）と平年並みである。
- ④ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。  
注）令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報 第2号 参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方

ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量

やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率6.8%（平年7.2%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生に助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率0.2%（平年0.9%）であり、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方

県内全域

発生時期

やや早い

発生量

やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年に比べてやや早く、7月第2半旬までの誘殺数は139頭（平年52.2頭）とやや多い。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

発生地方

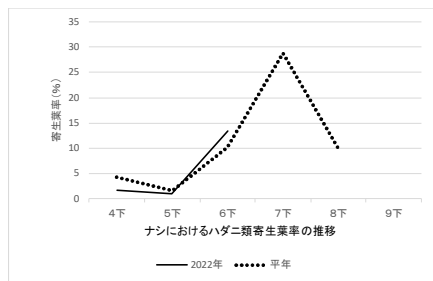
県内全域

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率13.5%（平年10.2%）、寄生虫数28.4頭/50葉（平年23.3頭）と発生量は平年並みである（右図参照）。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。



(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方

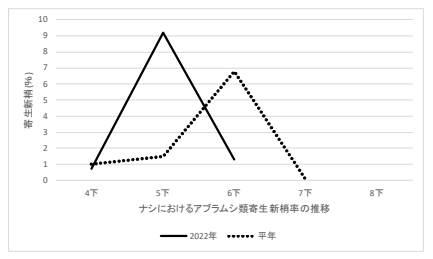
県内全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率1.3%（平年6.8%）、寄生度0.4（平年2.7）と発生量は平年に比べてやや少ない（右図参照）。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



## 2) カキ

### (1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率0.1%（平年0.4%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

### (2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

## 3) 果樹全般（カキ、ブドウ、ナシ等）

### (1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域（特にナシ無袋、カキ栽培地帯）  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月第2半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は766頭（平年362.4頭）と平年に比べてやや多い。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。  
注）令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号 参照

### 農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

#### 島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

[https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)